

## 帝京安積高校銃撃事件で対県交渉（1月23日）

事件発生から8周年を迎え、学園側が自主解決に応じるよう、厳しく指導することを野地稔部長に要請する「支援する会」のみなさんと。



党都山地区委員会・後援会主催

## 新春のつどい

1月26日 党と後援会の新春のつどいで司会。青年たちも熱唱。



中田地区新年会  
（二月二五日）

# 手つかずの自然豊かな里山を子どもたちや孫の世代へ

**大ショックだった**  
処分場のなれのはて

行つて見て驚いたのは、産業廃棄物処理場はすでに覆土されていて、一見、分譲地かとは見間違うほどの夷地ですが、かすかに卵の腐ったような臭いがします。案内してくれた現地の反対運動の同事務局長から確認された現地の臭いであることを、「地下二〇メートルの底で廃棄物どうしが化学反応を起こしてしまった」とあります。また、「この下は廃棄の湯がわいている」と真っ黒いドロドロした液体を見せられ、その臭いのすごいことに驚きました。人間は七〇〇ppmで死ぬといわれるが、最高時には二八、〇〇〇ppmもあつたといふことです。廃棄場周辺に住む多くの高齢者が病に倒れたといいます。

空気のきれいな所として選んで住んだ三種田町壱ノ原の里山に、突然ぶつてわいた産業廃棄物処理場建設計画。インターネットを利用して情報の発信源として活用され、建設阻止運動に情熱を燃やしている橋本富美さんのお宅を訪ねました。部屋のそばに、小学生の娘さんが拾つてきたまつ毛づくりを「森のエコラ」と名づけて自然を楽しんでいる様子が印象的でした。

## 会津豪雪被害の現地調査

齊藤三島町議、長谷部県議と共に（間方地区）



# 三種田産廃処分場建設に反対 市民大講演会に500人

1月29日三種田産廃処分場に反対の会主催の講演会に参加。



地元の方々の呼びかけに応え、500人を超える参加者で熱気溢れる講演会に、全国ゴミ弁連の広田次男弁護士と武藏工業大学の青山貞一教授による講演と産廃建設反対のたたかいを進めている県内各地の代表の紹介も行われました。

1月28日 高齢社会をよくする女性の会都山の学習会と新年会で、後藤宣代さん（県男女共生センター研究員、医大非常勤講師等歴任）とご一緒に。後藤さんによる、アメリカや北欧の草の根の女性運動や民主主義運動についての講演と、フルートの美しい音色に心満たされたひとときでした。

神山悦子が  
おじゃま  
します。

## 突然の産廃処分場建設計画

今回は



三種田町在住

橋本富美さん

なればての妻に大ショックでした。  
**一の力を一〇人で出し合って**  
**一〇の力を**  
がどうなつてもいいという理解で建設予定地の自然観察会を十六回行ないません。竹ノ内廃棄物処理場の実態を知らせ、反対運動を急速に強めなければと思ひだけが先走っていました。

かつて「夢の建材」としてもはやされたアスベストも健康被害が出るなど予想もしなかつたと同じように、産廃処分場も発展のために仕方がないという風潮もあります。

ところが、三年前、集会所で産業廃棄物処分場建設の説明会が開かれるというので、時々子どもを連れて泊まりに来っていました。空を見上げるとまるで里山が降ってくるようで、ずっと市内の中心部。ここに両親と私はとても感動的でした。そこには両親との同居するようになつたのは五年前からです。

か思ひなかつたのです。たまたまインターネットで検索したところ、『安定型廃棄物処分場』は全国的にいろいろ問題を起こしていることを知り、居ても立たないでしりぞれに、反対運動をしている隣の宮城県村田町の「竹ノ内廃棄物処分場」の生態を見て、こうようと近所の女性と二人で行つて来ました。

幸運にも県自然保護協議会の協力を得て、建設予定地の自然観察会を十六回行ないます。竹ノ内廃棄物処理場の実態を知らぬことこれがわかりました。新聞やテレビで報道されました。県のレッドデーターブックに指定されている猛禽類のノスリの巣も発見、モリアオガエルの生息も確認されました。自分たちの住んでいる地域が希少動植物の宝庫であることを再発見した活動でした。

今、『産廃建設に反対し、いのちと環境を守る会』の活動が多彩に行われています。「一人で一〇の力を出すのではなく、一〇の力を一人で出し合っていく運動」を合言葉に運動していく。三百人を超える来場者が賑わった『産廃建設阻止新そば祭り』では、裏方としての厨房に七十人余の人達が参加し成功させました。思いもよらず産廃問題を通じて多くの地元の方々と出会い、つながることができました。

市内中心部からわずか車で二〇分くらいいで、こんなに手つかずの自然豊かな里山があるのです。この自然を子どもや孫の時代までずっとこのまま守れるようにと思つています。

（神山悦子）